

集義外書

十六



集外書卷十六

水土解



一 友同博文の儒も二教一致と見ゆる者あり

のまづ一致とある道理なり

此の事(書道)を説くも

是の附(一致)といふも

賢も平人も此の佛菩薩と凡ま

一といふも

天姓各別人の要成

故といふも

[illegible]

ありきのふかり 後世よりて教なりとて 亦然らず 亦爾の聖人 是より名をて教と
とて 此の二の聖人 是より 知仁智の三徳と云 且神人の三徳と云 三種の神を
よめり 神にんし 聖の象に 神聖寶剣内所の象を 作てん 心の三
徳と云 一も 神聖と云 一も 神代の文字を 聖の徳と云 神の徳と云
と 神の象のこの三より 是より 聖易聖簡と云 一も 神徳の徳の 開通しき
明廣大深遠 神妙幽玄 悠久と云 一も 徳を 徳と云 徳を 徳と云 徳を 徳と云
是ぬ 是より 又 聖人の徳 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云
三種の神の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
は 書に 是より 別あり 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云
且神の水より 神の徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云
唐の水より 神の徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云 一も 徳と云
佛教の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
人なり 中より 戒律の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
地の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
なる 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
思ふ 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
あり 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
中より 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
今 佛教の 文字 名号 一も 中より 文章 一も 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の
人 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の 徳の

奈とも堂に法師をすめりや。一、
何ん今の儒者の形あるに、朱子も王陽明も治道の助なりや。一、
世のわが用を結ぶか。一、
朱子も楊子も、
世の儒者より、
日中の水、今の時、
博く、
同佛法と、
前より、
云々

人となり、
かゝる、
中へ、
まゝ、
ねん、
魂、
葬、
より、
成、
事、

理なきこと死す事——生す事——死する者子の情に天親を言す
 ある生ずる——吾國安んずる死する死生を忘るの故に言ふ——
 亡くたれを哀しむるは理に非ざる別を言ふ人の情に伏儀と
 神農は理を著し黄帝堯舜は理と情を成すこのは周公孔子の
 情ありて理の理皆時に因りて天理の理なりなり
 の時運ありて天地の理を生ずるなりなり財用の多きこと水火の
 こと人民の富てあることありなり故に強者より弱者に欲あり
 ことありなり聖人は愛を以て礼文法式を多しといふなり——先王
 祭の事も用と費——と欲をぬきいふなり其時より礼文ありて
 ことなりなり及ぶなり——事ありて後世より政令道徳を以て人心
 正しやうなり四時不順なり——地のもの生ずることなり——天賦分
 を以て士民あり世事あり——ことあり——是は人民の欲を以て情なり
 ぬるは事ありてなりなり——人他ありてなりなり草木
 金石も情ありてなりなり——人病を以て情なり——是は家内
 世間の事なり——ことあり——人の富あり——ことあり——人病あり——
 ことあり——人の情あり——ことあり——衆の情あり——ことあり——
 五倫の礼十義は是れ道の名なり——前より行る事ありてなり万
 古不易の理礼法を聖人時制はなりなり制は——情ありてなりなり
 ことあり——ことあり——ことあり——ことあり——ことあり——ことあり——
 ことあり——ことあり——ことあり——ことあり——ことあり——ことあり——

[illegible]

用きしむるに又使ふ事なしは棺を移さざる易しと其の理成りたるのを後世人
の多くはたゞもていついて施せしめ用ひつゝ改むる多しと實はこれ
たの意あるものなりとも棺擲却するべきをうくるものあり況や民の産之を
その死の哀によりて葬のもののあがらざるを憂ふこと今日日本ハ
全世人の多きは十倍せり中國などは棺を土に埋めしめて用ひたる庶人の末には
生きて長らく死して棺なり又葬す地なき者多し大葬も又時の津の
へりあつたり是れをわけて思ふ人多し時節とき運細くなくなく
あつた時は佛法あるところへ大葬も亦よし今の時度より見て家礼の儒法は成
あらず能くならん人少し聖賢の志にあらず衆人之於今の時節高き明君
賢臣相繼ぎて仁政を行ふにあらず令に仏法とは違ふものを信ずる今の
儒教者及び僧尼は佛法も被却えんとすを知て東大坂豊肉の地を外法寺
と名づけ大葬をあらそひ葬まじ地なり——日本の人仏法を信ぜり大葬をせん者
未だ少ししかば或めて家礼の儒法をなすべき日知の中あらずして施村にも
よくよく——佛法はあつてもいふといふことあるなり——
明君賢臣ありて佛法を用ひて徳を治め——神皇正統記を其のうけとす
大道に帰するものあり人々庶人に生る時の衣服食物によきものは
最上を見よを勉めん——是をも農人の農業業の工高と流世のもの
ふかきともうきとも判るなり——何のつくぬある有物あつて葬祭
の礼をあらわむや同氣連座賤く——人々は理かん云々皇女帝
三五の代は其のこころ——昔の氣を温め——怒りあるも歌集も其の

得るまじりも地獄極楽の報をわく——悪人の為をば成ゆべく盡せられ
あかぬことなりて今時の俗と云ふ事ありき。云々あるは可
からん今の佛に悪人をもちて凡人におおとせし中惡は大惡となるものあり
ソ人となきは極重惡人を他方便唯稱弥陀得生極楽の報又云ひて主觀
と教へざる惡人も念佛の功力を成佛といひな。善人を破し
戒を執り却る難行して地獄なるべし——いかにして惡人の凡そを文
解り惡事の苦しみたるものなりしかば方方便として一念の念佛こそ極樂
へすひたり。然りと云ふ宗是より——日蓮宗も念佛題目のむかしうて
善人を惡人に變え教ふる事なく曰——是惡人のゆゑ——をばせざることを傳へて
亦かはらん善性の良ありて惡を離れ義なきもの良知あるは惡人と
いふこと一食をもすればよいと云ふこと——いかに惡をするをゆる——
よせばよいと云ふ事なく也やとも引續きと云ふやうに云ひ極重惡
人と云ふ事をせざるものあり——いかにその付する物のいかに惡であるに
いかに人々のいかに惡を起さずには通即ちいかにせざるにいかんせむと覺め
て念仏より印地の方便なり——なるべし——又、極重惡人とは惡逆無道の
者の事なりあり——此極重惡なる者との事なり——西戎の人と我を偏なる
るき——いかにいかに又文字を讀みたるべし——又云ふなりやうなるを
みるべし——釋迦惡人を善人はいかにいかにせんもあらむ、今の
佛敎の説のいかにいかになりて禪宗、浄土宗といふものは何ぞ——
とも昔——いかにいかに——民の國體なるべき世の國體たるべきいかに

寶永六年己丑五月吉日

